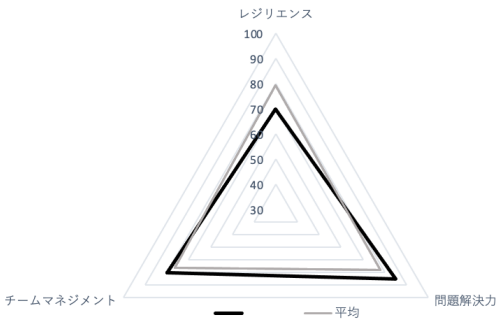
新入社員登山研修
個人報告書

受講者名：〇〇〇〇



報告者　森本　弘太

レジリエンス　70　B

自分の考えをしっかりと持っており、決めたことはやりたいと語り、実際に行動に移していました。登山1日目には重い荷物や急な勾配を物ともせず元気一杯に山行を楽しんでいました。しかし、夜の寒さで体調を崩してからは気持ちが沈んでしまい、結局2日目も課題に対するモチベーションを上げることができずに終わってしまいました。登山1日目のパフォーマンスが高かっただけに、2日目の〇〇さんのパフォーマンス低下はチームの結果に大きく作用しました。今の自分のモチベーションに左右されることなく、回復できるようなレジリエンスを身につけられると、とても素晴らしいパフォーマンスを発揮できると思います。

問題解決力　85　A

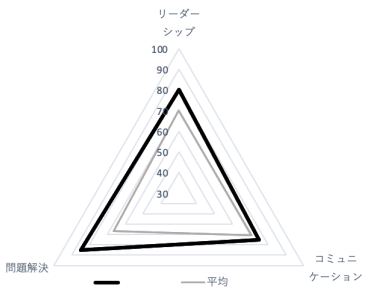
「まずはやってみよう」と全ての物事への取り掛かりが早く、いち早く情報を得ようとする姿が多く見られました。どちらの方に進んだら良いかわからない時には率先して行動し、チームを導きました。地図を読むスキルにも長けており、チームの中でいち早く現在地を同定することができました。しかし、直感で動くことが多く、しっかりと思考して内省を行うことが苦手な一面もあります。周囲が寒さ対策を行なっているにも関わらず、〇〇さんの寒さへの対応が遅くなったことにより、体調を崩す結果となりました。目先のことだけではなく、今後起こり得ることも予想して問題に対してアプローチできるようになると、持ち前の行動力が活かされてくると思います。

チームマネジメント　80　A

登山1日目にはチームのムードメーカーとして盛り上げ、楽しい山行の雰囲気を作ってくれていました。大変だったメンバーもその雰囲気に引っ張られて進むことができました。また、15時にキャンプ地に着くということにしっかりとコミットし、「15時には着くように頑張ろう」とチームを鼓舞するリーダーシップを見せる場面もありました。しかしながら、1日目の夜に体調を崩してからはチームへの働きかけがなくなり、みんなを引っ張るリーダーシップが欠けてしまい、結果として下山を選択することとなりました。振り返りで本人が公言していましたが、本来であればチームを鼓舞するのは〇〇さんの得意とするリーダーシップでした。自身がチームにどのように貢献できるのか、客観的に思考できるようになるとより良いでしょう。

95～100：SA（新入社員として非常に優れている）/80～94：A（新入社員として優れている）/70～79：B（新入社員として改善の余地がある）/60～69：C（新入社員として問題がある）/60以下：D（新入社員として非常に問題がある）

リーダーシップ登山研修
個人報告書



受講者名：〇〇〇〇

報告者　森本　弘太

リーダーシップ　80　A

最初のサブリーダーとしてチームを牽引し、時間通りに担当の目的地へと辿り着くことができました。ペースセッターとして全体を引っ張る、目的達成機能のリーダーシップを発揮しました。また、最終日の下山においても、存在感の強い目的達成機能を発揮しチームに貢献していました。一方、登山遠征初日には〇〇さんの集団維持機能が働いていない場面もあり、メンバー間で大幅に体力差が開き、結果としてチームは成果を出すことができませんでした。もっと早い段階で体力的に厳しいメンバーへアプローチし、目的達成のためにチーム全体を巻き込んで解決を目指していく場を作るようなリーダーシップがあれば、達成の糸口が見えたかもしれません。
状況に合わせて集団維持のリーダーシップも強められるようになると良いでしょう。

コミュニケーション　75　B

持ち前のロジカルな思考と素早い判断力がチームをリードする一方で、起きている問題に対してご自身の中で判断を完結してしまう場面が見られました。遠征初日には体力的に厳しいメンバーの荷物配分の有無を一部のメンバーと共有したのみで、全体に伝えることはしませんでした。また、下山時に体調不良を訴えたメンバーへの対応も、ご自身の判断のみで決めてしまう場面がありました。
全体でコミュニケーションをとる事により、〇〇さんとは違う角度からの解決策が生まれる可能性もあります。何かのアクシデントで〇〇さんが不在になってしまう状況でも、チームが機能するように成熟度を高める事にも繋がります。ご自身のスキルアップのためにも、チームを巻き込んだコミュニケーションを意識できるとより良いでしょう。

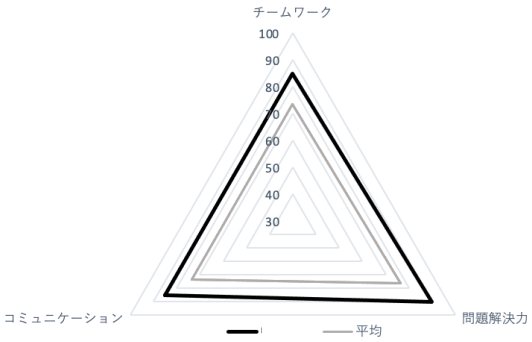
問題解決　85　A

問題を同定し解決策を導き出すスピードが早く、問題解決力の高さが登山遠征中にも垣間見えました。また、サブリーダーとして作成したトリッププランの精度は高く、論理的な思考の高さも伺うことができました。一方、リーダー役ではなくなってしまうと〇〇さんの存在感が薄れてしまい、今回の研修では〇〇避難小屋以降の問題にアプローチできず、気がついた時には取り返すことができない状態にまで陥ってしまいました。チームが目的を達成するために、高い問題解決力を活かしたリーダーシップ、適切な介入を発揮してほしいと思います。

95～100：SA（リーダーとして非常に優れている）/80～94：A（リーダーとして優れている）/70～79：B（リーダーとして改善の余地がある）/60～69：C（リーダーとして問題がある）/60以下：D（リーダーとして非常に問題がある）

ネクストリーダーASE 研修
個人報告書

受講者名：〇〇 〇〇



報告者　森本　弘太

チームワーク　85　A

終始メンバーから意見を求めてまとめ役になるなど、強い集団維持機能のリーダーシップでチームを引っ張っていました。チームとして、どの活動の意見も発言しやすい雰囲気を作ることができた要因は、〇〇さんの存在によるものが大きかったです。しかしながら、全体の意見を聞きすぎて意思決定が遅くなってしまうこともありました。リーダーを務めた木の板で島を渡るアクティビティにおいては、成功したものの1時間もかけてしまいました。時にはリーダーとして目的達成機能を高め、強引な意思決定をしてでもチームを牽引していくスタイルも必要です。

問題解決力　90　A

取り組みが早く、多くの情報を収集できる反面、分析力に欠ける場面がありました。ブロックの上に全員で乗る活動の際には、トライアンドエラーを繰り返し情報を得たものの、それまで行なったことへの検証をせずに新しい方法を試していました。しかしながら、問題解決のアプローチを講義で学んだ後は、チームや課題の問題を同定することを意識し、そこに対してアプローチできていました。特にロープをすり抜ける活動では、失敗を振り返り、チームとして最適な解決策を導き出すことができました。
〇〇さんが元々お持ちのロジカルな思考に問題解決の論理を用いて、職場でも転用できると素晴らしいリーダーになられると思います。

コミュニケーション　85　A

研修全体を通して、自らの意見を述べながらもみんなの意見を聞き、全体のコミュニケーションを図る場面が多く見られました。傾聴力が高く、〇〇さんがリーダーの際には話しやすい雰囲気が醸成されていました。一方、丸太の上で並び替える活動では、〇〇さんの発言を相手がうまく受信できず、不安定な状態で一定時間耐えなければならない状況を生んでしまいました。自分の発信を、相手が意図した通りに受け取っているのか確認できるようになるとより良いでしょう。また、番号を順に踏んでいく活動では、明らかに自分のキャパシティがオーバーしているにも関わらず、サポート希求ができませんでした。目的達成のために本質的なコミュニケーションを意識できると良いでしょう。

95～100：SA（リーダーとして非常に優れている）/80～94：A（リーダーとして優れている）/70～79：B（リーダーとして改善の余地がある）/60～69：C（リーダーとして問題がある）/60以下：D（リーダーとして非常に問題がある）